古石ひでさと5期目に向かっての議会活動　ひでさと

古石　後援会だより

URL：http://古石.com/

第３１７６号
発行日　令和２年５月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　２６－２２２６

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

道中央会長　小野寺氏に

道中央会長に小野寺氏

JAグループ　ホクレンは篠原氏

篠原末治氏

小野寺俊幸氏

佐藤彰氏

中瀬省氏

JAグループ北海道は26日、JA道中央会会長に同会の小野寺俊幸副会長(68)＝常呂町農協（北見）会長＝、ホクレン会長に十勝管内士幌町農協の篠原末治組合長(59)、道厚生連会長に北はるか農協（上川管内美深町）の中瀬省組合長(66)を充て、道信連の佐藤彰会長(68)＝北石狩農協会長＝を続投させる人事を内定したと発表した。(解説11面)

任期はいずれも3年。役員推薦会議の佐藤博幸委員長は同日の記者会見で「全ての人が農業に精通した素晴らしい方々だと確信している」と述べた。

道中央会とホクレンは6月23日、道信連と道厚生連は24日にそれぞれ総会を開き、正式決定する。各連の副会長などは次の通り。

（敬称略）

▽道中央会副会長　串田雅樹(56)＝十勝清水町農協組合長・新▽ホクレン副会長　畠山良一(69)＝新函館農協会長・新＝、村木秀雄(69)＝いわみさわ農協組合長・新＝、今井和善(65)＝根室管内標津町農協組合長・新▽ホクレン代表監事　西本護(65)＝北ひびき農協（士別）組合長・新▽道信連副会長　石川修一(65)＝とうや湖農協会長・新▽道厚生連副会長　西川孝範(67)＝きたみらい農協（北見）組合長・新＝

コロナで人手不足　農家を独自支援

JA北海道が経費助成

JAグループ北海道は、新型コロナウイルス感染拡大で外国人技能実習生が来日できず人手不足に陥った農家を支援するため、地元人材の雇用や入国遅延でかかった経費の一部を各地のJAなどに対して独自に助成する事業を始めた。

技能実習生の代わりに新たに人を雇用した場合、余分にかかった受け入れ経費の差額の一部を助成する。今後、実習生が来日した際、政府が水際対策で求める2週間の待機に必要な宿泊料金などの経費に充てることもできる。

またJAや地域の農協組合員でつくるグループが、求人サイトの活用や障害者を雇用する農福連携など人材獲得に向けた新たな取り組みを始める場合についても助成する。

昨年度始めた農業人材確保支援事業の一環で、予算は総額1億円。余分にかかった費用の半額を限度に助成し上限は600万円。

農業の技能実習生を巡っては、JAを監理団体とする人だけで470人が日本へ入国できず、18人が出国できずにいる。政府も農家が新たに人材を雇用する場合、1人当たり時給500円程度を補助する方針。JA北海道中央会の担当者は「まずは国の補助を優先して活用してもらい、それで足りない部分についてJAで補いたい」と話している。

（生田憲）

夕張メロン初競り　コロナで冷え込み

2玉12万円　昨年の40分の1

夕張メロンの初競りが25日朝、札幌市中央卸売市場で行われ、この日最上級の「秀品」1箱（2玉）は12万円で競り落とされた。同市場によると、記録に残る2001年以降で最安値。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う景気悪化で、過去最高だった昨年の500万円の40分の1以下に値下がりした。感染拡大を防ぐために3月から休止している競り取引がこの日は特別に再開した。

最高額で落札したのは青果物仲卸のふたみ青果（釧路）で、販売先は未定という。夕張メロンの初物は、夕張市が財政破綻した翌年の07年に1箱200万円で落札されて以来、宣伝効果を狙った「ご祝儀相場」が定着していた。青果卸大手の札幌みらい中央青果はコロナ禍で企業がPRを控えていることなどが値下がりの原因とみている。

初競りは飛沫感染を防ぐために競り台と買い受け人の距離を約5mに離すなどの衛生対策を取った上で午前7時に始まった。例年の3分の1ほどに入場を制限したものの、約100人が集まって市場は活気づいた。

この日の入荷は4月の低温の影響で昨年の半数の554玉だったが、品質は大ぶりで糖度は十分。同社の木沢岳志取締役は「厳しい時勢を反映した価格だが、競りもできて今年の道産物の取引のよいスタートを切れた」と話した。

（生田憲）

2玉12万円と昨年に比べて大幅に値下がりした夕張メロンの初物＝25日午前7時15分、札幌市中央区の札幌市中央卸売市場（金本綾子撮影）

農業用水不足の懸念

新十津川・徳富ダム　冬の少雪で

雪解け水で満水の徳富ダムだが、雪解け後の水不足が懸念される

【新十津川】冬の少雪の影響で農業用水が不足する可能性があり、町などの農業関係者らが懸念している。新十津川、雨竜、浦臼、月形の4町に農業用水を供給する徳富ダム（新十津川町）は26日現在、雪解け水で満水だが、水源となる増毛連峰の積雪が例年に比べ少なく、今後の降水量によっては6月にも取水制限する可能性があるという。

札幌管区気象台によると、2019年11月から20年3月までの滝川市の累計降雪量は586㌢。平年の63%にとどまり、1983年の観測開始以来最少だ。

同ダムの農業用水取水業務を担当する新十津川土地改良区の松原敏浩参事は「例年なら6月中旬ごろまで山に雪があるが、今年はすでにほとんど解けている。これほど雪がない年は初めて」と困惑する。今月末には山の雪解けは終わると想定、その後の雨が少ない場合は「6月中からの取水制限も考えられる。この時期からの取水制限は異常事態だ」と危機感を募らせる。

同様に前季の冬が少雪だった昨年度は、6月の少雨も重なって7月16日にはダムの貯水率が37・3%まで低下、翌日から8月6日まで同ダム初の取水制限が行われた。同改良区は取水制限に明確な基準を設けていないが、必要に応じて利水者らによる渇水調整協議会を開く予定だ。

同ダムからの取水は8月31日までだが、とりわけ稲が成長する7、8月にかけては水が十分に必要で、不足した場合は収量や質にも影響する。新十津川町の米農家惣部真さん(42)は「冬の時点で雪が少ないと心配している」と述べた。

石油3社赤字転落

3月期　価格急落、需要減響く

	売上高	営業損益	純損益
JXTGHD	10兆117（▲10.0%）	▲1130（5370億円の黒字）	▲1879（3223億円の黒字）
出光興産	6兆458（36.6%）	▲38（1793億円の黒字）	▲229（814億円の黒字）
コスモエネルギーHD	2兆7380（▲1.2%）	138（▲85.3%）	▲281（531億円の黒字）

※単位は億円。カッコ内は前期比または前期実績。▲はマイナス。HDはホールディングス

石油元売り大手3社の2020年3月期連結決算が出そろった。純損益は3社とも前期の黒字から一転、赤字に転落した。原油安による備蓄原油の評価損に加え、海外での石油・天然ガス開発事業の減損損失も計上。純損失は17年にJXTGが発足して以来初めて。

出光興産は229億円の赤字。19年4月の昭和シェル石油との統合効果で売上高は増えたものの、原油安や燃料の販売減が利益を大きく圧迫した。

コスモエネルギーHDの赤字額は281億円。2月公表の業績予想は370億円の黒字だったが、原油急落で備蓄原油の評価損が膨らんだ。

3社とも今期は減収減益を見込むが、コロナの影響は当分続くとみる。JXTGの杉森務社長は「外出ないことが定着する可能性がある。需要がコロナ前に戻るかを注視したい」。方、石油化学製品の製造から販売した安藤事業所の継事業について、「プロ事業を目指すか（統合時間がかかる。リサイクルも含めて、いろいろなが考えられる」と述べた。

出光興産の木藤俊一社は、原油安などの環境を受け、20～22年度の中経営計画を見直すと表明した。北海道製油所（北牧）を含む7カ所の製油の統廃合は「前倒しできるが、今すぐやらないけない状況ではない」と述べた。

（米田真琴）

エア・ウォーター　電力小売り参入へ

7月から10万件の契約目標

LPガス販売道内最大手の北海道エア・ウォーター（札幌）が、7月から一般家庭向けに電力小売り事業を始めることが分かった。道内に約40万件あるLPガスの自社顧客を中心に電気を売り込み、将来的に10万件の契約獲得を目指す。北海道電力と電力販売で業務提携を結ぶエア・ウォーターの参入で、2016年4月の電力自由化以降続いてきた「北電対新電力」という道内電力業界の構図が変化する可能性もある。

エア・ウォーターは道内の人口減で主力のLPガス需要が伸び悩む可能性を見据え、電力販売を加えた総合エネルギー企業としての成長を目指す方針。経済産業省に既に小売り電気事業者の登録申請をしており、近く認められる見通し。

基本的な料金メニューは、北電の基本メニューより2～3%割安にする方向で調整している。エア・ウォーターはLPガスのほか、灯油や天然水の顧客も多いことから、電気にLPガス・灯油・水を組み合わせた、割引率の高い「セット割引」も設ける考えだ。

道内では、電力で約17万2千件の顧客を擁する北海道ガス（札幌）をはじめとする新電力に、北電からの顧客流出が止まらない状況が続く。電力自由化以降、家庭用など低圧分野で北電から新電力に切り替えた件数は累計で約53万件（1月時点）。道内全域に営業網を持つエア・ウォーターが「北電陣営」としてライバルへの顧客流出に歯止めをかけられるか注目される。

販売する電気は、北電傘下の新電力「北海道電力コクリエーション」（札幌）から100%調達する予定。新電力が電力市場から調達する量が増え、卸販売電力量が減少している北電にとって、エア・ウォーターの顧客獲得による販売電力量の増加も期待できる。

北海道エア・ウォーターは「電気や灯油などのエネルギーを一元的に提供できるワンストップサービスを充実させたい」（幹部）としている。（佐々木馨斗）

岩見沢の風景　日本画で味わう

市出身・佐藤宏三さん個展

緻密な筆遣いで描かれた日本画が並ぶ個展

【岩見沢】岩見沢市出身で埼玉県川口市在住の日本画家佐藤宏三さん(54)の個展が市絵画ホール・松島正幸記念館（7西1）で開かれている。今年8月の開館30周年を記念した特別企画展で、岩見沢の原風景を中心に緻密な筆遣いで描かれた28点を紹介している。

佐藤さんは東京芸大絵画科日本画専攻に進み、日本画家の故加山又造氏に師事。同大学院修了後は埼玉県内にアトリエを構え、国内外の自然風物を題材に約20年創作を続けてきた。

特別企画展には、いわみざわ公園内の展望台から見える光景を描いた高さ50㌢、幅4㍍の屏風絵や、縦40㌢、横60㌢の和紙に収めた北村地区の冬景色などが並ぶ。

天然の鉱物が原料の「岩絵の具」に数種類の膠を混ぜ、7種類の筆で色合いの違いや質感を表現。佐藤さんは「見慣れた風景を描いた絵を見て、岩見沢の自然の美しさを再認識してもらえたら」と話す。

6月7日まで。午前10時～午後6時（木曜は午後1時半から）。水曜休館。入館料は一般210円、高校・大学生150円、中学生以下無料。新型コロナウイルス対策で来場時はマスク着用の上、入館時に氏名と連絡先を記入、間隔を空けて鑑賞するよう呼び掛けている。

（梶原康生）